

人文科学研究科 国際文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
基礎論	国際文化基礎論(研究／調査法)	2	必修	○			修士課程の学修に必要な基礎的な知識とスキルを身につける。特に、各自の専門分野において、自立的に課題を設定する力、適切な方法で解決を導く上で求められる「調べる力」のかん養を目的とする。文献調査と整理の方法を重点的に扱い、課題の立て方、研究史の整理、参考文献のまとめ方などについても検討する。なお、研究倫理についても学ぶ。		◎		
	国際文化基礎論(発表／論文作成)	2	必修	○			修士課程の学修に必要な基礎的な知識とスキルを身につける。特に、研究発表及び学術的文章の執筆に必要な知識や技法を体系的に学び、論理的な思考力と文章力を身につけることを目的とする。他者の論文の分析を通して基本となる論文作成の形式を知り、そのうえで自らのスタイルで論文が書けるようにする。また、研究発表の仕方についてその基本を理解し、実践できるようにする。		◎		
日本文化分野	日本文化研究（歴史）A	2	選択				日本文化を歴史的に探究していくために必要な知識と視点を身につけることを目的とする。本科目では、代表的な日本文化論や近代以降の西洋の日本観・日本論を取り上げ、日本内外で日本及び日本文化がどのように捉えられ、論じられてきたのかについて、講読とディスカッションを通して考える。	◎		○	
	日本文化研究（歴史）B	2	選択				日本文化を歴史的に探究していくために必要な知識と視点を身につけることを目的とする。本科目では、日本近代の文化史上の論点について、最新の研究成果の動向を概観しながら、何が論点となっているかの把握に努める。歴史だけでなく、近代文学専攻の受講者にも配慮し、当代の文学作品も視野に入れる。	◎		○	
	日本文化研究（文学）A	2	選択				文学研究の視点や理論について学び、自身の研究において適切な方法を選択できるようになることを目的とする。主にテキスト分析や物語論で用いられる概念をとりあげ、その内容について理解を深める。履修者が自分の関心や研究課題に応じて、テキストから項目（術語）を選択して要約を発表し、履修者同士で質疑応答を行いながら理解を深める。	◎		○	
	日本文化研究（文学）B	2	選択				文学研究の視点や理論について学び、自身の研究において適切な方法を選択できるようになることを目的とする。主に伝統的な文学批評で用いられてきた概念と文学批評の多様な方法を取りあげ、その内容について理解を深める。履修者が自分の関心や研究課題に応じて、テキストから項目（術語）を選択して要約を発表し、履修者同士で質疑応答を行いながら理解を深める。	◎		○	
	日本文化研究（言語）A	2	選択				日本語の語の意味の研究成果と認知言語学的な視点から、意味拡張について検討し、多義語や類義語の分析を行う。意味拡張の説明では、日本語と英語の例から学ぶ。理論的な枠組み（メタファーやメトニミーなど）を理解し、日本語の事例と、可能ならその他の言語の事例も考えることで、日本語についての専門的知識と研究方法を身につけ、日本語をこれまでとは異なる視点から理解する。	◎		○	
	日本文化研究（言語）B	2	選択				語用論のポライトネス理論など語用論の理論を学び、日本語の事例を分析した文献も読む。いずれも、日本語と英語の例を用いて説明する。理論的な枠組み（発話行為やグライスの理論、ブラウンとレヴィンソンのポライトネス理論など）を理解し、日本語の事例と、可能ならその他の言語の事例も考えることで、日本語についての専門的知識と研究方法を身につけ、日本語をこれまでとは異なる視点から理解する。	◎		○	
	日本文化演習Ⅰ	2	選択	○			日本文化研究（日本史・日本文学・日本語学の各分野）のゼミナールである。研究対象に対する分析の観点や方法に加え、文献の検索方法・収集方法、電子データベースの使い方、書誌の扱い方など、研究のための基本的な知識と技能を習得することを目標とする。当該分野の文献を読みながら研究動向を把握し、各自の研究対象とテーマを十分に検討し、絞り込む。		◎		
	日本文化演習Ⅱ	2	選択	○			日本文化研究（日本史・日本文学・日本語学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰをふまえて研究テーマを設定したうえで、先行研究を適切に把握し、各論の要旨や研究史・研究動向をまとめられるようになることを目標とする。研究テーマは、実現の可能性に留意し、学際性を含んだものに設定する。併せて適切な研究方法を選定する。なお、専攻全体で学期半ばに中間発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎		
	日本文化演習Ⅲ	2	選択	○			日本文化研究（日本史・日本文学・日本語学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰ、Ⅱをふまえて、各自の研究テーマ及び問題意識に従って調査、分析、考察を進める。演習内での発表や討議を重ねたうえで、論文の章立てや論述の流れを考えていく。関連する文献の把握と読解やデータ収集等の調査を計画的に実行する。なお、専攻全体で学期半ばに論文作成計画発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎		
日本文化演習Ⅳ	2	選択	○			日本文化研究（日本史・日本文学・日本語学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをふまえて、研究の成果について演習内での発表や討議を重ねたうえで、修士論文にまとめていく。なお、学期半ばに主指導及び副指導に対して口頭で論文概要発表を行い、修士論文提出の可否について判断を受ける。		◎			
	比較文化研究(比較文化) A	2	選択				異文化交流史の研究に触れ、研究方法を学ぶことを目標とする。文献読解を通して、異文化の双方向的な関係について検討する。具体的には、幕末から明治にわたる日米交流史の講義の後、外国人による日本観察に関する文献（アメリカ人の明治日本観察とその後の思想的変化）を読む。はたして外国人たちは日本で何をどのように記述したのか。時代背景、異質性、共感、客観と主観、相対化、文化の伝播、文化変容などをキーワードにして、文献を読解する。	◎		○	

人文科学研究科 国際文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
比較文化分野	比較文化研究(比較文化) B	2	選択				異文化交流史の研究に触れ、研究方法を学ぶことを目標とする。文献読解を通して、異文化の双方向的な関係について検討する。具体的には、幕末から明治にわたる日米交流史の講義の後、外国人による日本観察に関する文献（アメリカ人に限定されない欧米人一般の明治日本観察をトピック別に整理したもの）を読む。はたして外国人たちは日本で何をどのように記述したのか。時代背景、異質性、共感、客観と主観、相対化、文化の伝播、文化変容などをキーワードにして、文献を読解する。	◎		○	
	比較文化研究(比較文学) A	2	選択				欧米と日本のエコクリティシズムの思想を理解し、環境の視点から日本の現代文学を分析できるようになることを目標とする。前半は欧米の環境思想について、後半は現代日本文学についての講義と質疑応答・ディスカッションが中心となる。毎回出す課題を読んで授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加してクラスに貢献することが重要である。	◎		○	
	比較文化研究(比較文学) B	2	選択				欧米と日本のエコクリティシズムの思想を理解し、環境の視点から日本の現代文学を分析できるようになること、比較文化研究（比較文学）Aで学んだ内容を実践的に応用できるようになることを目標とする。エコクリティシズムと現代日本文学についての講義と質疑応答・ディスカッションが中心となる。毎回出す課題を読んで授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加してクラスに貢献することが重要である。	◎		○	
	比較文化研究(英語文学) A	2	選択				英語圏の小説を取り上げ、作品の検討を通してその作品が書かれた時代と地域の特徴を考察し、各自が取り組んでいる研究テーマとの比較を踏まえて比較文化研究に取り組むための視野を広げることを目的とする。英語圏の小説を原作で読むことで英語力を高めながら、作品が書かれた時代と地域の知識も得られるようにする。各自の研究テーマの視点から発言を行うことにより、受講生同士で情報提供・意見交換し合い、視野を広げられるようにする。	◎		○	
	比較文化研究(英語文学) B	2	選択				英語圏の小説を取り上げ、作品の検討を通してその作品が書かれた時代と地域の特徴を考察し、各自が取り組んでいる研究テーマとの比較を踏まえて比較文化研究に取り組むための視野を広げることを目的とする。英語圏の小説を原作で読むことで英語力を高めながら、作品が書かれた時代と地域の知識も得られるようにする。各自の研究テーマの視点から発言を行うことにより、受講生同士で情報提供・意見交換し合い、視野を広げられるようにする。	◎		○	
	比較文化研究(比較考古学) A	2	選択				「沈黙資料」と言われる考古学資料の特色や性格を踏まえ、多様な情報を収集・整理し、時代を画する大きな枠組みを描出する手法、及び考え方を習得する。比較的規模の大きな集団墓地を例として取り上げ、具体的な分析を通して、時期区分の方法、墓葬の分類基準の設定、差異の意味づけ、時期的変遷の把握、作業仮説の立て方、及びその検証など、「比較文化」の視点を交えながら実践的に学修する。	◎		○	
	比較文化研究(比較考古学) B	2	選択				「沈黙資料」と言われる考古学資料の特色や性格を踏まえ、多様な情報を収集・整理し、時代を画する大きな枠組みを描出する手法、及び考え方を習得する。比較的規模の大きな集団墓地を例として取り上げ、具体的な分析を通して、時期区分の方法、墓葬の分類基準の設定、差異の意味づけ、時期的変遷の把握、作業仮説の立て方、及びその検証など、「比較文化」の視点を交えながら実践的に学修する。	◎		○	
	比較文化研究(比較民族文化論) A	2	選択				社会史およびエスノヒストリーの視点を身に付け、基本的な研究方法を学ぶことを第一の目標とする。つづいてネーション、ナショナリズム、ナショナル・アイデンティティ、歴史の記憶といったキーワードを中心に近代化過程における国家統合の道具として「国民」や「伝統」の創造、文化的象徴の表象についての学びを通して、正確に文書(専門用語も含め)を読み込む訓練をも目標とする。社会史、エスノヒストリーの古典を講読して歴史学の視点を深く学ぶ。	◎		○	
	比較文化研究(比較民族文化論) B	2	選択				社会史およびエスノヒストリーの視点を身に付け、基本的な研究方法を学ぶことを第一の目標とする。つづいてネーション、ナショナリズム、ナショナル・アイデンティティ、歴史の記憶といったキーワードを中心に近代化過程における国家統合の道具として「国民」や「伝統」の創造、文化的象徴の表象についての学びを通して、正確に文書(専門用語も含め)を読み込む訓練をも目標とする。個別事例について読み込み、日本、アイルランド、イングランド、スコットランドなどの事例から学ぶ。	◎		○	
	比較文化演習Ⅰ	2	選択	○			比較文化研究（文化学・文学・考古学・民族文化学の各分野）のゼミナールである。研究対象に対する分析の観点や方法に加え、文献の検索方法・収集方法、電子データベースの使い方、書誌の扱い方などに関する基本的な研究技能について習得することを目標とする。当該分野の文献を読みながら研究動向を把握し、各自の研究対象とテーマを十分に検討し、絞り込む。		◎		
	比較文化演習Ⅱ	2	選択	○			比較文化研究（文化学・文学・考古学・民族文化学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰをふまえて研究テーマを設定したうえで、先行研究を適切に把握し、各論の要旨や研究史・研究動向をまとめられるようになることを目標とする。研究テーマは、実現の可能性に留意し、他分野の研究との関連性を視野に入れて学際性を含んだものに設定する。併せて適切な研究方法を選定する。なお、専攻全体で学期半ばに中間発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎		

人文科学研究科 国際文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
特別講義	比較文化演習Ⅲ	2	選択	○			比較文化研究（文化学・文学・考古学・民族文化学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰ、Ⅱをふまえて、各自の研究テーマ及び問題意識に従って調査、分析、考察を進める。演習内での発表や討議を重ねたうえで、論文の章立てや論述の流れを考えていく。関連する文献の把握と読解やデータ収集等の調査を計画的に実行する。なお、専攻全体で学期半ばに論文作成計画発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎		
	比較文化演習Ⅳ	2	選択	○			比較文化研究（文化学・文学・考古学・民族文化学の各分野）のゼミナールである。演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをふまえて、研究の成果について演習内での発表や討議を重ねたうえで、修士論文にまとめていく。なお、学期半ばに主指導及び副指導に対して口頭で論文概要発表を行い、修士論文提出の可否について判断を受ける。		◎		
	日本文化特別講義(社会と文化)	2	選択				分野横断的な視点から日本文化を考える講義科目である。社会と文化の関係性の一側面として、近代日本の文化や思想をとりあげる。それらを検討する際の論点を把握し、学術的な歴史の文章の書き方を学ぶとともに、研究史に対する理解を深めることを目標とする。具体的には、テキストに沿って日本思想史の論点について検討する。	◎		○	
	日本文化特別講義(文化交流)	2	選択				分野横断的な視点から日本文化を考える講義科目である。漢籍を引用した奈良・平安時代から大正時代までの日本文学作品のいくつかを読み解くことによって、日本における中国文化受容の一端を理解することを目標とする。漢籍が日本人の教養の中に知識として融けこむさまを幅広く見ていく。また、漢文受容の際に用いられた日本独自の方法、漢文「訓読」についても学ぶ。	◎		○	
	日本文化特別講義(文学と社会)	2	選択				分野横断的な視点から日本文化を考える講義科目である。日本の近代文学を題材にしつつ、社会と文学のかかわりについて考察する。文学を伝えるメディアについての分析を手がかりに、社会的に流通する観念、あるいは人間の感性とメディアとの関係、また、メディアの形態と文学作品との関係について考え、社会・メディア・文学がどのようにつながりを持ちつつ人間の観念を形成しているかを分析する。	○		◎	
	日本文化特別講義(言語と文化)	2	選択				分野横断的な視点から日本文化を考える講義科目である。言語と文化の関係、特に日本語と日本文化の関係について理解を深める。言語とは何か。文化とは何か。また言語と文化はどのような関係にあるのか。言語と文化の一般的関係、そして日本語と日本文化の相関関係についての理解を深めると同時に、論理的に問題を分析する能力や問題解決能力を養っていく。	○		◎	
	比較文化特別講義(日中比較)	2	選択				特定の分野について日本と他の国や地域の文化比較を扱う講義科目である。本科目は、日本と中国の文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックや事象を取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○		◎	
	比較文化特別講義(日韓比較)	2	選択				特定の分野について日本と他の国や地域の文化比較を行う講義科目である。本科目は、日本と韓国（特に現代）の文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックや事象を取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○		◎	
	比較文化特別講義(日欧比較)	2	選択				特定の分野について日本と他の国や地域の文化比較を行う講義科目である。本科目は、日本とヨーロッパの文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックや事象を取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○		◎	
	比較文化特別講義(日米比較)	2	選択				特定の分野について日本と他の国や地域の文化比較を行う講義科目である。本科目は、日本とアメリカの文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックや事象を取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○		◎	
	Variable Topics in Culture and Society in Japan	2	選択				Although foreigners have studied and analyzed many unique aspects of Japanese culture since the 16th century, it is still difficult for them to understand how the Japanese think and act. This course will explore some of the major Japanese thoughts from the pre-modern as well as modern periods and examine characteristic behaviors of the contemporary Japanese people.			◎	○
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択				The course theme for 2020 is Digital Arts in Japanese Culture. We will survey all forms (literature, visual/painting, experience/interactive, popular entertainment, film, anime, etc.) as well as historical/ sociological/anthropological studies. Our goal will be to gain better understanding on digital arts in Japanese society, with a balance between mainstream and avant garde, subculture, and underground movements. We will also study the place of these creative pieces in global context.			◎	○
	英語文献講読	2	選択	○			文学批評や文化批評に関する英文資料を読み、英語の読解力だけでなく、アカデミックな用語や表現に慣れ、自らも使えるようになることを目的とする。前半は環境文学・震災文学の分析を共通の課題として行い、後半に各自それぞれの論文作成と指導を行う。過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。			○	◎

人文科学研究科 国際文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。

DP 3 国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。

DP 4 専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
分野 共通 科目	国際文化特別講義	2	選択				異文化を学ぶ・自文化を知るという考え方にに基づき、多角的な視点や広い視野に立って文化を理解すること、長い歴史を担う文化を継承し、新たな文化を形成する理念を養成するための基本知識を得ることを目標とする。特に、日中の文化交流や比較に絞って、ジャンル別にその歴史、思想、文学・芸術、社会、生活、宗教などさまざまな分野での実態を観察し、その奥にあるものを洗い出すことによって国民性・民族性など文化に関する諸問題を探究する。			◎	○
	英語コミュニケーション(論文作成法)	2	選択	○			英語のレポート作成や修士論文執筆に必要なアカデミック・ライティングの表現方法と表現形式を学ぶことを目的とする。特に、学術的な文章で求められる文体や書式、表記などの決まりごとを知り、適切なレベルの語彙を習得し要約能力を向上させることを目指す。また、一次資料と二次資料を駆使しながら自分の考えを適切に構成し、論理を展開する力がつくよう留意したい。			○	◎
	英語コミュニケーション(作品講読)	2	選択	○			英米文学の国際小説の代表的作品を読み、英語力を高めながら、文化・慣習の違いが異文化交流に及ぼす影響についての理解を深めることを目標とする。原書の精読とその原書を基に制作された映画鑑賞を通して、心理描写の英語表現と会話の英語表現を学び、異文化交流における振る舞い方と他者理解について考察する。			○	◎
	日本語プレゼンテーション技法	2	選択	○			大学院生に必要なプレゼンテーションスキルを学ぶ。主に聴衆や対象者とのコミュニケーションに関する基本要素を学び、さまざまな実践を通じてプレゼンテーションの基本概念と基礎技術を身につける。さらに効果的なプレゼンテーション資料の作成や、ディスカッションやディベートなどの演習を通じて、研究発表などで求められるコミュニケーション能力を養成する。題材は、身近な話題や社会的に議論のある大きなテーマ、学術的なテーマまで幅広いものとする。			○	◎
	日本語ライティング技法	2	選択	○			大学院生に必要な日本語の文章作成の基本を学ぶ。素材文を用いて、各種文章の目的・内容・構成、表現に注目し、問題点を探し出し、最も相応しい表現は何かを判断する力を養う。また、授業時の活動や課題では、目的の異なる素材文を改稿する。文章を書く課程や推敲ではピア学習を取り入れる。学生同士で相互に分析・批評しあうことで、読み手の視点を意識しながら書くことを学び、書く時に必要不可欠なより良い視点を広げる。			○	◎
	日本語文献講読	2	選択	○			近現代の日本語の散文を読みつつ、大学院での学修に必要な日本語の読解力を養うことを目標とする。正確に文意を読み取る力を身につけることを優先的な課題とし、併せて、読解を通じて文化的現象を研究する際の留意点にも触れ、また、日本文化について理解を深めることも目指す。精読を通して難解な部分、意味の不明確な部分ができる限り明確になるよう解説する。各文章について発表者を決め、その報告をもとにディスカッションし、理解を深めていくという方法で行う。			○	◎
	インターンシップ	2	選択	○	○		インターンシップは院生のキャリア形成に重要な実践教育の一つである。履修生は、大学院で勉強した専門知識と語学力を活かし、企業、公的機関、民間団体などで就業体験をする。そして、社会人としての技能や態度を磨き、修了後の国際舞台での活躍に寄与する。			○	◎
	グローバル実地研修	2	選択	○	○		これまで学んだ教養知識を、現地を訪問することで確認し、事後あるいは論文作成の過程で、各自の研究テーマの視点から課題を設定し、考察するなど、今後の研究に生かす。			○	◎

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

